

Vol.101

Vol.101 (2024年 冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM事例・知識 …	3
Stakeholders / 法人スポンサー紹介 ……………	20
Activities / 支部活動 ……………	24
PM Calendar / PMカレンダー ……………	28
Fact Database / データベース ……………	29

Best Practice and Competence / PM事例・知識

- ◆PMI Japan Festa 2024 開催結果報告 3
セミナープログラム 代表 鴨下 恵一
- ◆委員会・部会活動内容紹介 15
 - PMコミュニティ活性化委員会
PMコミュニティ活性化委員会 委員長 杉原 秀保
 - セミナープログラムの紹介
セミナープログラム 代表 鴨下 恵一

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

- Asana Japan 株式会社 20
- PMアソシエイツ株式会社 22
PMアソシエイツ株式会社 鈴木 安而

Activities / 支部活動

- ◆ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2024 報告 24
PMI日本支部 関西ブランチ PMI実践研究会 岡田 知之
- ◆岡山大学 総合技術部でPMI日本支部が「プロジェクトマネジメント基礎研修」を実施
～技術職員の高度化とPMの実践的スキル習得を支援～ 26

PM Calendar / PMカレンダー 28

- PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 29

PMI日本支部ニュースレター Vol.101 2024年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
E-mail：info@pmi-japan.org
ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。
「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

セミナープログラム 代表 鴨下 恵一



日 程：2024年11月9日(土)～11月30日(土)

テ マ：変化の波をのりこなす！ ～不確実性の中での戦略的プロジェクトマネジメント～

講演形態：リモート配信 2024年11月9日(土)～11月30日(土)

- 全10講演 ① 会場+リアルタイム配信 11月9日(土) 5講演
 ② リアルタイム配信 11月10日(日) 5講演
 ③ オンデマンド配信 11月11日(月)～30日(土)

講師一覧

日付	No.	講師	所属	講演テーマ
11月9日	1	柴田 崇徳 様	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 上級主任研究員	アザラシ型ロボット「パロ」のエビデンスに基づく 海外での医療機器化と医療福祉制度への組み込み
	2	菊地 英一 様	株式会社 長大 執行役員 事業戦略推進統括部 統括部長	空飛ぶクルマの実現に向けて ～建設コンサルタントとして異業種からの挑戦～
	3	各務 茂雄 様	株式会社JTB DX担当 執行役員	「デジタルとアナログの交差点」 ～JTCの事業会社でDXを行う為の道しるべ～
	4	竹村 真紀子 様	エデュケーター パークプロデューサー	前歯は折れ、パークは事業譲渡、泣くか笑うか!?
	5	結城 智史 様	合同会社 Zest CEO	意外と簡単ではない「やるべき事をやる」ということ
11月10日	6	北村 智子 様	TDK株式会社 生産本部 モノづくり改革統括部 工程能力改善課	役割が後押しした挑戦 ～初めての経験を通じた成長の記録～
	7	藤原 紀子 様	東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科 がん看護専門看護師/リサーチナース	未来の医療を創るために現在の患者さんの看護をする ～リサーチナースという道～
	8-1	PM Award Small & Medium部門 大門 恭平 様	医療法人生和会グループ SDX研究所 所長	リハビリテーション分野に特化した生成AIソリューションの開発
	8-2	PM Award Large部門 原島 努 様	企業年金ビジネスサービス株式会社 情報システム部長	SOP (Seiho Open-Innovation Project) ～企業年金の制度管理事務における生保共通プラットフォームの構築～
	9	荒金 英樹 様	愛生会山科病院 消化器外科部長 京介食推進協議会 会長	手術室から踏み出す京のまちづくり
10	前野 隆司 様	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 武蔵野大学ウェルビーイング学部 学部長・教授	ウェルビーイング経営 ～みんなが幸せなプロジェクトの進め方～	

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

◆はじめに

PMI Japan Festaは今回で16回目を迎えますが、2020年に新型コロナウイルス感染拡大により会場開催を断念し、それ以降4年間は完全リモート開催としてきました。今回は2日間のうち、1日目を会場とオンラインのハイブリッド開催とし、オンラインの良さと現地ならではの醍醐味をご提供できるよう、セミナープログラムもFestaの進化形を求めて取り組みました。

また、昨年と同様に、今回のPMI Japan Festa 2024でも「PM

Award 2024」の最優秀賞受賞者をお招きするなど、各界のリーダーに登壇いただき、極めて高い評価を得て大成功裡に終わることが出来ました。

◆運営面での趣向

企画・運営にあたるセミナープログラムの準備活動ぶりや、講師との事前リハーサルの様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。



開幕時の放映動画



会場でのスタッフ一同



グラフィックレコーディングの例

◆日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション

昨年に引き続き今年もPM Award とのコラボレーションを行い、PM Awardでの2部門におけるそれぞれの最優秀プロジェクト受賞者から、プロジェクトの内容をご紹介いただきました。

◆交流会

5年ぶりの会場開催に合わせて初日の5講演終了後に交流会を開催しました。講師の方々も参加され楽しく歓談いただきました。



Best Practice and Competence / PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

◆聴講者のご意見、聴講地域などの特徴

アンケート結果から満足度を見ると「大変良かった」と「良かった」の合計が99%を超えており、大好評であったことがわかります。

〔いただいたコメントの一部〕

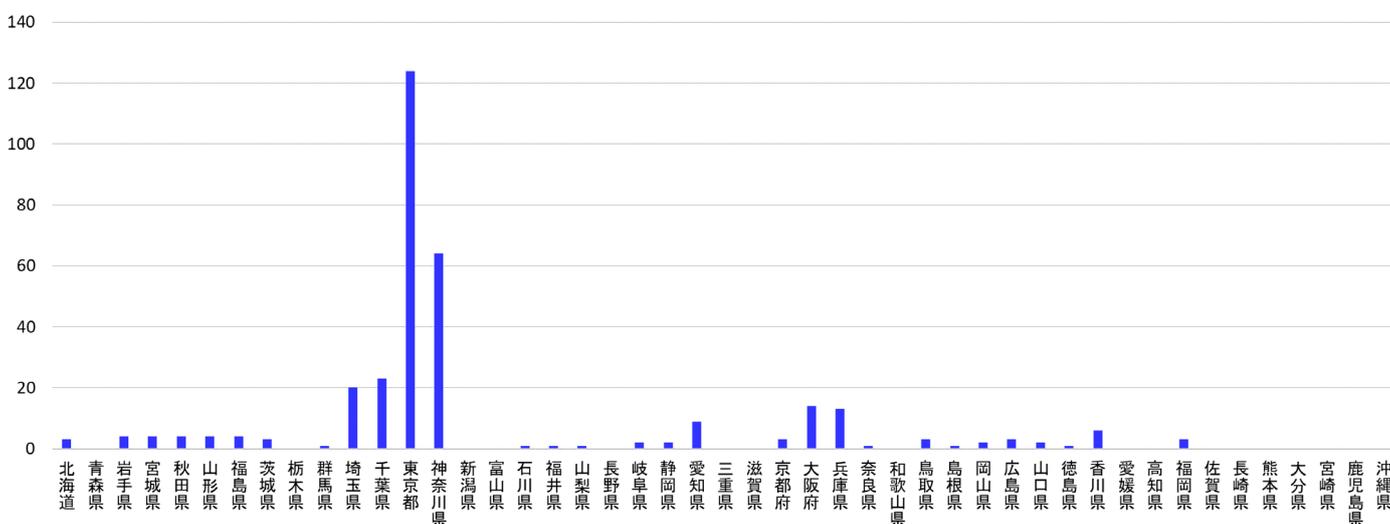
- 毎回大変興味深いテーマ。先進的だけでなく、目から鱗のテーマなど含めていただいて非常に面白いです。
- 色々なテーマを元にプロジェクトマネジメントを理解し、

また、懇親会でもさまざまな方のご意見をうかがえた。

- 講演者がバラエティに富んでおり、単にITや製造、建築などの現場のPJの話ではなく、どれも人との関りに特化したテーマが多かったため全く知らない分野の話でも興味を持って聞くことが出来た。
- 久しぶりに現地参加してリモート受講より良かったです。

また、例年同様、関東地域での聴講者が多くなっています。

Festa2024 聴講者の居住地



◆聴講者の参加形態

会場参加、リアルタイム聴講、オンデマンド聴講の3形態別（配信プラットフォームによる聴講実績データ）で見ると以下ようになります。

- 初日の聴講者 : 会場参加30人、リアルタイム聴講52人（5コマの平均値）
- 2日目の聴講者 : リアルタイム聴講67人（5コマの平均値）
- オンデマンド聴講者 : 219人（10コマの平均値）

また、アンケート結果から、「リアルタイム配信」と「オンデマンド配信」の実績を見ると、「リアルタイム配信」を聴講された方は全体の29%となっています。

◆総括

2日間PMI Japan Festa 2024にご参加いただきありがとうございました。

初日は東京秋葉原駅至近のアキバプラザにて開催しましたが、会場開催は新型コロナウイルスが蔓延する以前、2019年以來のことです。

準備から会場運営まで、また2日目のオンライン配信も含めて多大なご支援とご協力をいただきましたPMI日本支部の事務局、理事の方々に感謝申し上げます。そして何より、アキバプラザに足を運んでいただきました参加者、ウェブで聴講いただいた皆さまに、感謝申し上げます。

私達は、オンサイト開催とオンライン開催とで、それぞれの良さがあると考えており、今回はオンサイトとオンラインの組み合わせでの開催としました。ただ、5年ぶりの会場開催となったため至らぬ点多々あったものと思います。

今回のPMI Japan Festaは、「変化の波を乗り越えなす！～不確実性の中での戦略的プロジェクトマネジメント～」をテーマに開催いたしました。言うまでもありませんが、私たちが

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

取り巻く環境は、非常に大きく、そして早いスピードで変化し続けています。皆さんのプロジェクトも環境変化への対応が求められているのではないのでしょうか。と言うより、次々と押し寄せる変化の波への対応に日々追われているのかもしれない。

このような不確実性が高い時代に、期待通り、期待以上の成果を出すには、単に変化に対応すると言うのではなく、変化の波をいち早く察知し、その波を乗り越えることが必要ではないかと思ひ、このテーマを掲げました。

今回のご講演から、目標を明確にしてブレないこと、変化を逃さず素早く行動すること、選りすぐりのメンバーに対し適切なコミュニケーションをとること等、変化をチャンスとして乗り越えるために重要な点として多くの示唆をいただきました。また、自分の専門に拘らずに広い視野をもって、さまざまなことに興味をもつことの重要さも指摘されていました。最もひどい状態をイメージするという話もありましたが、自分を幸せな状態に保つことも、マネージャーとして大事なことと思ひます。

今回ご講演いただいた内容から感じたことは、変化を乗り

こなし変化をチャンスと捉えることで、実は次の波を自分で起こすことができるのではないかとということです。次の波を起こしているか、起こしつつある講師の方々のお話だったと思います。今回のセミナーに参加いただいた皆さんにとっての変化の波がどのようなものかは、人により違います。ただ、波の種類、大小にかかわらず、「これは」という波を掴むことが肝要です。そのためにアンテナを高くしてチャンスの波を探ることで一見関係ないようなことでも、どこかで繋がり新たな波のヒントになるものと思ひます。

今回の Japan Festa 2024、そして私達セミナー・プログラムの活動が、皆さまが変化の波を乗り越えただけでなく、次の変化を起こしていく一助になれば幸いです。皆さまに腹落ちしていただけるよう、私達セミナー・プログラムのメンバーも、日々アンテナを高くして次の講師を探し始めていますので、一緒に次の波を起こしていきましょう。

そしてまた来年、PMI Japan Festa 2025で、また月例セミナーでもお会いできるのを楽しみにしています。

以下、今回の講演について、ホームページに掲載した概要を元にご紹介します。

■ No. 1

アザラシ型ロボット「パロ」のエビデンスに基づく海外での医療機器化と医療福祉制度への組み込み

□ 講師：柴田 崇徳 様

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
上級主任研究員

□ 講演：2024年11月9日(土) 12:10～13:10

【講師プロフィール】

1967年 富山県生まれ。

92年 名大院電子機械工学専攻修了・博士(工学)。

93年 通産省工技院機械技術研究所・研究官。

95-98年 マサチューセッツ工科大学人工知能研究所・研究員兼任。

96年 チューリッヒ大学人工知能研究所・客員研究員。

98-01年 機械技術研究所・主任研究官。

01-13年 産業技術総合研究所・主任研究員。

09-10年 内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付参事官(情報通信担当)付、及び社会還元加速プロジェクト(在宅医療・介護担当)兼任。

13年～ 東工大情報理工学院・特定教授、及びMIT高齢化研究所・客員フェロー。

24年4月～ 東北大院工学研究科ロボティクス専攻・客員教授。



● 受賞歴

02年 ギネス世界記録、世界で最もセラピー効果がある

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

ロボット・PAROの発明。

03年 (社)日本青年会議所、人間力大賞グランプリ、内閣総理大臣奨励賞。

04年 Junior Chamber International, The Outstanding Young Person of the World。

15年 フランスAP-HP、Patients Trophy (非薬物療法のイノベーション)。

18年 Ryman Foundation、「Ryman Prize」(老年医療・福祉・健康分野で世界最高峰、NZ\$250,000)。

22年 第10回ロボット大賞「記念特別賞」、経産省等共催(第1～9回の受賞の内、社会的インパクトと、社会変革に繋がったロボットに授与。パロは2006年第1回に受賞)等、受賞多数

【講演概要】

パロとは、93年から医療福祉分野でのアニマル・セラピーを代替する「ロボット・セラピー」と一般家庭での「ペット代替」とを目的に研究開発されたアザラシ型ロボットで、05年に日本で第8世代のパロを市販化し、09年に欧米の各種規制に準拠したものを市販化した。

日本の医療福祉制度は海外とは異なり、医療と福祉が分離しているため、パロを主に福祉分野でのロボット・セラピーを目的として「福祉用具」とした。一方、米国で「セラピー」の単語を使うためには、治療効果を謳う「医療機器」にする必要があったため、治療効果と安全性のエビデンスを示し、09年に米国FDA(食品医薬品局)から、「バイオフィードバック医療機器(クラス2)」の承認を受けた。欧州では、高齢者や障害者向け福祉施設でのパロのニーズが高く、当初は医療機器化を強く求められなかったが、徐々に医療でのニーズも増えたため、20年にEUのMDRに準拠して医療機器化し21年から販売が始まった。



患者の対象は小児から高齢者まで様々であるが、その後、英国、シンガポール、香港、豪州でもパロを医療機器化した。

世界各国の医療福祉制度にパロを組入れるため、医療福祉機関等と連携して、「ランダム化比較試験」等を実施し、それらの「メタ解析」の結果等により、パロの治療効果のエビデンスを蓄積している。

米国では、認知症、ガン、PTSD、脳損傷、発達障害等の患者が、痛み、不安、抑うつ、興奮(暴力、暴言、徘徊等)、不眠等を診断され、「パロを用いるバイオフィードバック治療」を処方・処置されると、公的・私的医療保険で保険償還され得る。また英国や仏国では、認知症の「ガイドライン」において「非薬物療法」として掲載され、副作用が問題な「薬」の低減を期待されている。さらに北欧や米国や仏国や香港では、高齢者施設等へのパロの導入費用の公的全額助成を受けられる。他にウクライナ避難者の「心の支援」に、UNICEF、UN IOM等にパロが活用されている。

■No.2

空飛ぶクルマの実現に向けて

～建設コンサルタントとして異業種からの挑戦～

□講師：菊地 英一様

株式会社社長大 事業戦略推進統轄部事業戦略担当
執行役員 兼事業部

□講演：2024年11月9日(土) 13:25～14:25

【講師プロフィール】

大学では情報工学を専攻し、主に人工知能についてニューラルネットワークや遺伝的アルゴリズムを活用し教師なしの学習モデルをテーマに研究。

株式会社社長大に入社後、インフラ分野のITコンサルティングやシステム開発事業に従事。道路交通、災害情報等を広域的に集約管理し活用するシステムなど地理空間情報に関連づけたシステム開発プロジェクトなどを全体設計から開発、運用までマネジメント。

現在、新事業企画開発を担う事業戦略推進統轄部を統轄し、未来の街づくりに貢献するため、量子コンピュータ等の先端ITを活用したユースケースの開発・実装プロジェクトを推進すると共に、Society5.0のコンセプトのもとデータ連携基盤をコアとし行政支援、住民サービス向上など社会貢献に資



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

する事業やサービス開発を目指し日々活動。

特に、次世代モビリティである空飛ぶクルマの社会実装に向けて、国内初となる海上での実証フライト、社会受容性向上に向けた行政支援など多くの実績を積み上げるとともに、自社における事業化を加速させるべく様々な取組を展開中。

【講演概要】

次世代エアモビリティである空飛ぶクルマの実現に向けて、異業種である航空分野へ参入し、建設コンサルタントである当社がどのように事業を立ち上げ展開をはかってきたか、これまでの取組と今後の展望を交え講演を行う。



公共事業で培った総合建設コンサルタントとしての機能をさらに発展させるべく、当社の既存技術分野である、建築設計、社会基盤、まちづくり、環境分野等と航空分野が融合したコンサルティング領域を確立させるにいたった取組を紹介する。

また、“長大技術”×“航空分野”で生まれた新たな価値を顧客へ提供し、地方自治体や民間への受注拡大を目指す一方で、空飛ぶクルマの実装・展開が普及した後は、地方自治体のコンサル案件は一般化・競争激化することを想定している。

これまでのコンサル領域の拡大にとどまらず、空飛ぶクルマ事業参入も視野に、運航やポート運営等、新たな事業展開に向けた取組について、災害時における救急・防災利用用途での活用や地方創生に資する中山間地域等での運航事業ビジネスを事業など今後の展望を交えて紹介する。

■No.3

「デジタルとアナログの交差点」 ～JTCの事業会社でDXを行う為の道しるべ～

□講師：各務 茂雄 様

株式会社JTB CDXO

□講演：2024年11月9日(土) 14:40～15:40

【講師プロフィール】

1994年、INS Engineeringでエンジニアとしてキャリアをスタート、コンパック、EMC、VIEウェアというグローバル企業で多岐にわたる経験を積む。

2012年、楽天へ入社。プロダクトマネージャーとして、Global Cloudをリード。その後、Microsoft Corporationではモビリティ&クラウド技術部 部長、アマゾン ウェブ サービス ジャパンではProfessional Service 本部長、ドワンゴではICTサービス本部 本部長を歴任。

2018年10月、ドワンゴの親会社であるKADOKAWAへ入社。グループCIO、ICT局 局長、執行役員/DX戦略本部 副本部長を務め、2019年4月には、KADOKAWA Connectedの代表取締役社長にも就任。

三菱UFJ銀行デジタルサービス企画部、経営企画部 部長としてMUFGのDXを行った後、現在はJTB CDXOに就任。

また、2020年4月新設の情報経営イノベーション専門職大学教授に就任、GovTech東京 理事CTOも務め、多方面にその活動を広げている。

【講演概要】

JTC（伝統的日系大企業）にてハンズオンでDXを進めてきた実体験から見えてきた、残すべきアナログプロセスや既存の文化と、デジタル技術や思考を活用した変革を進めるべき基本的なアプローチをお伝えしたいと思います。

端的には、業務の中で経験したマイクロサービス型チームを日本流に見直し、現代的アメーバ経営とSECIモデルを活用して実現してきた成果についてお話をしたいと考えています。

具体的には、様々なプロジェクトの経験を統合して生み出した必要なTODO、実現させる仕組み化の方法を、従来からある日本企業の組織に適用し、各組織でのプロジェクトを成功させてきた経験とあわせてお伝えします。また、現在推



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告



し進めているJTB社の改革の経験から、刻々と変化する社会に対応するためにDXの必要性は高まっていると考えており、DXを進めるために、今後さらに重要となっていく人的資本経営の道しるべについても、お伝えしたいと考えています。

■ No.4

前歯は折れ、パークは事業譲渡、泣くか笑うか!?

□ 講師：竹村 真紀子 様

エドゥケーター、パークプロデューサー

□ 講演：2024年11月9日(土) 15:55～16:55

【講師プロフィール】

政府機関で90カ国の企業派遣生への日本のビジネスシステムの講義を担当し、企業・行政で「段取り力向上研修」、「ファシリテーション研修」を行うなど、子どもから大人までの育成に携わっている。



「世界のどこにいても自分の能力を開花させ、たくましく生きていける子どもを育てる」ことをミッションに2009年にIWCJ財団 (<http://www.iwcj.org/>) Little Ambassadors programを立ち上げ、80カ国以上の大使館とグローバル教育、様々な貢献プロジェクトを行う。

保護者向けにはGlobalな視点で子育てを考えるママ達のネットワークGlobal Moms Networkを運営。

財団での活動を拡大するために計画を進めてきたエドゥテイメントテーマパーク「SMALL WORLDS」 (<https://www.smallworlds.jp>) を2020年6月に東京・有明にオープンし執行役員/館長として運営、2024年4月に沖縄の企業が沖縄

にオープンするミニチュアのパーク「Little Universe」の教育団体/インバウンドPR統括 取締役として従事。

2024年10月に阿蘇くまもと空港敷地内にオープンする「くまもとSDGsミライパーク」をプロデュース。

AERAにて「日本を突破する100人」の1人に選出される。

東洋経済オンラインのスタートより「グローバル接待の作法」を連載。

【講演概要】

2020年、コロナのスタートと同時に4つのオリンピック会場の真ん中に大型屋内施設をオープン。祈願も虚しくオリンピックは無観客になるばかりかパークの目の前の道は警察の検問で通行止め。そこに追い討ちをかける2021年5月の東京都からの施設閉鎖要請。大型エンターテイメント施設向けの補助はない... どうする??



コロナが明けて次に取り組んだ沖縄のパークのオープン。作り込み期間は半年、主要メンバーは4名。最短期間、最小人数のプロジェクト...無謀!? でもやるしかない!

沖縄のオープン後、落ち着く間もなく次は日本初の「銀行が経営するパーク」のプロデュース。日本初プロジェクトを絶対失敗できないプレッシャーは半端ない。

「なぜそんなに苦勞をしてまでやっているんですか?」と真顔で問われるほどのチャレンジの嵐。その嵐を乗り切れているのは3つのテーマが異なるパークの立ち上げ、5つのパークの運営に携わった経験から実感するエンターテイメントパーク運営独特のプロジェクトマネジメント、巻き込むべき人、巻き込んではいけない人。最大効率で動く時の判断基準。どん底を這いつくばる時の胆力。

「自分の苦勞はまだマシかも」と思いたい方向への講演です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

■ No.5

意外と簡単ではない
「やるべき事をやる」ということ

□ 講師：結城 智史 様

合同会社 Zest CEO

□ 講演：2024年11月9日(土) 17:10～18:10

【講師プロフィール】

1979年福岡県生まれ、高校時代までの多くの時間をバスケットボールに費やす。

東京大学理科 I 類に入学後、同大学の社交ダンスサークル銀杏会に入部。大学3年時から社交ダンススタジオにも通い始め、競技ダンスに夢中になる。

大学卒業後、(株)インクスで約1年間プログラマーとして勤務しつつ、アマチュア競技ダンサーとして全日本ファイナリストとなる。

(株)インクスを退社後、日本最大の競技ダンス団体であるJBDF（日本ボールルームダンス連盟）にてプロフェッショナル転向。スポーツダンススタジオ・アクトレスに約18年間勤務しつつ、プロ競技ダンサーとして全日本ファイナリストになり、数々のタイトルや賞を獲得。

2021年に競技引退後、コロナ禍で浮き彫りとなった社交ダンス業界の諸問題の改善が必要と共感するプロダンサーを集め、合同会社 Zest を興し、六本木で社交ダンススタジオ「The Zest」を運営しはじめる。

【講演概要】

バブル期に隆盛を誇った社交ダンス業界が数年前から斜陽業界と言われ始め、コロナ禍で一気にその流れが加速しまし



た。社交ダンスはその特性上、広いフロアが必要なのですが日本の中心である東京から社交ダンス専用の広いフロアが消え、いくつかの社交ダンススタジオや関連企業が閉店に追い込まれ業界から撤退しました。社交ダンス人口も大きく減少し、これまでのプロ社交ダンサーの雇用形態の問題も表面化しています。

このような社交ダンス業界を再び活性化させる、つまり人、物資、資本、情報が集まり滞り無く流れるようにすべく日々試行錯誤している中で得られた経験などを、今後新事業に挑戦されるリーダーの方々にご紹介させていただきます。

成功者による講義では無く泥臭くもがきながら走っている最中の未熟なリーダーの体験談です。

【「やるべきこと」を見つける】

- 社交ダンス業界の資本の流れを考察
- 業界にとっての顧客は誰なのか？
- 顧客から見た業界の現状（業界団体の分裂が落とす影）
- 顧客にとって魅力的な業界になるにはどうしたら良いのか？

【「やるべきことをやる」を始める】

- 団結は力なり（United we stand, divided we fall）
- 業界を魅力的にしていくフェーズの予想
- 魅力的な業界になっていくために必要な設備（環境構築）
- 今後の業界の展望

【余談（試行錯誤の共有）】

- プロジェクトマネージャーとして学んだ事

■ No.6

役割が後押しした挑戦

～初めての経験を通じた成長の記録～

□ 講師：北村 智子 様

TDK株式会社 生産本部 モノづくり改革統括部
工程能力改善課

□ 講演：2024年11月10日(日) 9:30～10:30

【講師プロフィール】

2009年、信州大学大学院（物質工学専攻）を修了後、TDK株式会社に入社。大学でめっきの世界に魅了され、決められた答えのない最先端の研究開発分野に飛び込む。自分が生み出したものが、いずれ業界の指標や世界基準のようなも



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

のになることを夢見る。

2016年からは製造工程を効率化することで会社の利益に直結する仕事を任されている。工程能力改善課は、製造工程を言わば「見える化」して生産効率を上げるのがミッション。幅広い分野の製品開発、生産に関わりモノづくりの奥深さを再発見する日々を送っている。

そのようにしてエンジニアリングに夢中になっている最中、NHK『魔改造の夜』参戦プロジェクトでリーダーに抜擢される。

●メディア掲載・出演

2011年 日経ビジネス

2012年 日刊工業新聞リケジョ小町

2019年 産学社「電子部品業界大研究」

2023年 NHK『魔改造の夜』

2024年 TDKラジオCM

<https://www.tdk.com/ja/tdkyouth/index.html>

【講演概要】

突如発足された『魔改造の夜』参戦プロジェクトでリーダーに任命され、初めてマネジメントと向き合いました。お題は「トラちゃんウサちゃん50mリレー」、1ヶ月半の密着取材、悪戯心あふれるレギュレーション、絶対に延ばすことが出来ない期限、何度も何度も頭の中で繰り返した勝ちカードを手にした瞬間に広がる景色。チームメンバーも私も全速力で駆け抜けた経験を番組では紹介されなかったエピソードも交え、これからプロジェクトマネージャーを目指すあなた、その上司の皆さまのアンテナに届くようなメッセージとともに発信します。



●『魔改造の夜』とは

2020年から不定期にNHKで放送されている、超一流のエンジニアたちが極限のアイデアとテクニックを競う技術開発エンターテインメント番組である。番組では、リミッターを外し、とてつもないモンスターに改造する行為を「魔改造」と呼び、これまでに「クマのおもちゃで瓦割り」や「トースター高跳び」などのテーマに有名企業や大学が挑んできた。

■No.7

未来の医療を創るために 現在の患者さんの看護をする ～リサーチナースという道～

□講師：藤原 紀子様

東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科
がん看護専門看護師／リサーチナース

□講演：2024年11月10日(日) 10:45～11:45

【講師プロフィール】

2005年より東京大学医科学研究所附属病院看護部・臨床研究支援部門に勤務。修士(保健学)／博士(医学)。

2012年 がん看護専門看護師認定、および米国リサーチナース認定(CRN-BC)取得。

2015～2016年 米国・豪州にて、臨床研究のオペレーション・マネジメントを学び、2017年より現職。

IACRN(国際臨床研究看護学会) Board Member、日本支部代表。

米国がん研究所臨床研究グループNRG Oncology: Diversity, Equity & Inclusion Committee 委員



【講演概要】

現在の医療は、「過去の臨床試験」の成果に基づいています。つまり、私たちの未来の医療は「現在の臨床試験」なくしてはあり得ません。では、患者となった人が、病気に直面したとき、どのような治療を望むでしょうか。その重要な意思決定を支える根拠を作るのが、現在の臨床試験です。

しかし、臨床試験は、現在の患者さんの協力がなければ成



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

り立たないものです。未来の医療を築くためには、現在の患者さんに必要なケアを提供しながら、その患者さんの協力を得て臨床試験を適切に実施する必要があります。

このように、患者さんと未来の医療を守る役割を果たしている看護師がリサーチナースであり、国内外で増えています。

本講演では、リサーチナースの国内外での歩みとチャレンジについてお話させていただきます。



■ No.8-1

リハビリテーション分野に特化した生成AIソリューションの開発

〔PM Award 2023 での Small and Medium 部門 最優秀プロジェクト賞〕

□ 講師：大門 恭平 様

医療法人生和会グループ SDX 研究所長

□ 講演：2024年11月10日(日) 12:45～13:45

【講師プロフィール】

医療法人生和会グループの岸和田リハビリテーション病院に2016年に理学療法士として入職し、主任や科長を歴任しました。2021年には同法人のSDX研究所に研究員として参画し、2023年からは所長としてDXの推進を通じて、リハビリテーション分野における新たな価値創造に取り組んでいます。



● 学歴：

畿央大学大学院で修士号取得、京都大学大学院博士後期課程で研究指導認定。

● 受賞歴：

2019年：第31回大阪府理学療法学会 優秀賞

2021年：crQlr Awards 2021 Showing Perspective of Co-creation Prize

2024年：PM Award 最優秀賞

● 主要論文：

- Omon K, et al. 「Virtual Reality-Guided Dual-Task Body Trunk Balance Training in a Sitting Position Improved Walking Ability Without Improving Leg Strength.」 Prog Rehabil Med 4. 20190011, 2019
- 大門恭平. 「社会参加と精神機能」地域リハビリテーション. 2018. 13. 4. 289-294

【講演概要】

本講演では、医療法人生和会グループの2病院とSDX研究所、株式会社Pleapが共同で進める、リハビリテーション分野に特化した生成AIソリューションについてご紹介します。

このプロジェクトは、音声認識技術とAIを活用し、リハビリテーション病院における診療録の記載を効率化することを目的としています。特に、リハビリテーション分野に特有の用語を正確に診療録に反映させるため、専門性の高い学習モデルを開発し、生成AIによる自動化を図っています。

従来、臨床現場では、患者様のリハビリ状況や経過を治療後に詳細に記録することが求められており、これにかかる時間と労力が医療従事者の負担となっていました。しかし、このソリューションを利用することで、治療後には診療録が既に完成に近い状態となり、簡単な修正で完了するプロセスを実現します。今後、このソリューションはグループ内のみならず、広くリハビリテーション病院全体に应用可能であり、業務負担の軽減と医療の質の向上に寄与することが期待されています。

本講演では、プロジェクトを進める中で直面した課題や工夫についてもお話しします。



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

■No.8-2

SOP (Seiho Open-Innovation Project)

～企業年金の制度管理事務における生保共通プラットフォームの構築～

[PM Award 2024でのLarge部門 最優秀プロジェクト賞]

□講師：原嶋 努 様

企業年金ビジネスサービス株式会社

□講演：2024年11月10日(日) 12:45～13:45

【講師プロフィール】

1993年 日本生命保険入社。日本生命保険、ニッセイ情報テクノロジーにおいて、厚生年金基金、確定給付企業年金、確定拠出年金など企業年金全般にわたるシステム開発、金融機関向けの各種ITサービス事業展開、オフショア推進等を経て現職。

現在は、SOPを終えてスタートした生保7社事務運営の安定的なサービス提供に向けたIT推進、ナショナルインフラを担う立場として次なるステージに向けた事業・サービス展開の検討などに取り組んでいる。

【講演概要】

本講演では、企業年金ビジネスサービス(CPBS)がプロジェクトオーナーとして9年間かけて取り組んだ生保企業年金統合プロジェクト(SOP)をご紹介します。



SOPは、2つの陣営に分かれて運営されていた生命保険会社における企業年金の制度管理事務・システムを集約・統合し、生命保険会社7社の共通プラットフォームを構築したプロジェクトです。お客様サービスの一層の向上に加え、競合会社間での「非競争領域」においてオープンイノベーションの実現による生命保険業界共通のコスト効率化、「人生100年時代」における企業年金制度の安定的かつサステナブルな運営が可能となる事業基盤の実現を目指しました。

講演では、様々な苦難を乗り越えSOPをやりきった今、プロジェクトを通じて得た“学び”などもご紹介します。

■No.9

手術室から踏み出す京のまちづくり

□講師：荒金 英樹 様

愛生会山科病院 消化器外科部長

京介食推進協議会 会長

□講演：2024年11月10日(日) 14:00～15:00

【講師プロフィール】

1966年 神奈川県出身

1992年 京都府立医科大学医学部医学科卒業

市中病院、大学病院等の勤務を経て2000年より現在の愛生会山科病院 外科勤務。

2010年 京都府、滋賀県で栄養治療、食の支援にかかわる医療介護職が集う有志の団体「京滋摂食嚥下を考える会」を設立。食を支える地域連携体制の整備に取り組む。

2019年 食を支える医療と食産業の連携を目指した「京介食」ブランドを設立。その管理団体「京介食推進協議会」の会長に就き、医療と産業の在り方、食を支えるまちづくりに取り組んでいる。

【講演概要】

日頃は京都の市中一般病院の奥の、そのまた奥の手術室で主に消化器がんの外科治療に従事しながら、入院患者さんの栄養療法を院内の多職種とともに担当しています。



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2024」開催結果報告

点滴や胃瘻と言った「人工栄養」を活用しながら様々な疾患の治療の下支えをする中で「口から食べる」ことの重要性、その難しさを実感するようになりました。そして手術室、病院を飛び出し京都の伝統食産業や医療の枠を超えた多方面の方々の力もいただきながら、「いつまでも口から食べられるまちづくり」の課題に取り組んでいます。



嚥下食プロジェクト
京料理

その活動の中で医療と産業連携の課題、医療の目指すものは何か、人生の終焉の迎え方など多くの課題がみえてきました。

「食べられなくなること」は視聴者の皆様にも必ず降りかかる問題であり、医療にお任せではなく、京都の活動を通じて皆様自身が食べることを支えるまちづくりへの参加を考慮していただく機会になればと願っています。

■ No. 10

ウェルビーイング経営

～ みんなが幸せなプロジェクトの進め方～

□ 講師：前野 隆司 様

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授

武蔵野大学ウェルビーイング学部長・教授

□ 講演：2024年11月10日(日) 15:15～16:15

【講師プロフィール】

1984年東京工業大学卒業、1986年同大学修士課程修了。キヤノン株式会社、カリフォルニア大学バークレー校訪問研究員、ハーバード大学訪問教授等を経て現在慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。武蔵野大学ウェルビーイング学部長・教授。兼務。博士(工学)。

著書に、

『ディストピア禍の新・幸福論』(2022年)、

『ウェルビーイング』(2022年)、

『幸せな職場の経営学』(2019年)、



『幸せのメカニズム』(2013年)、

『脳はなぜ「心」を作ったのか』(2004年) など多数。

日本機械学会賞(論文)(1999年)、日本ロボット学会論文賞(2003年)、日本バーチャルリアリティー学会論文賞(2007年) などを受賞。

専門は、システムデザイン・マネジメント学、幸福学、イノベーション教育など。

【講演概要】

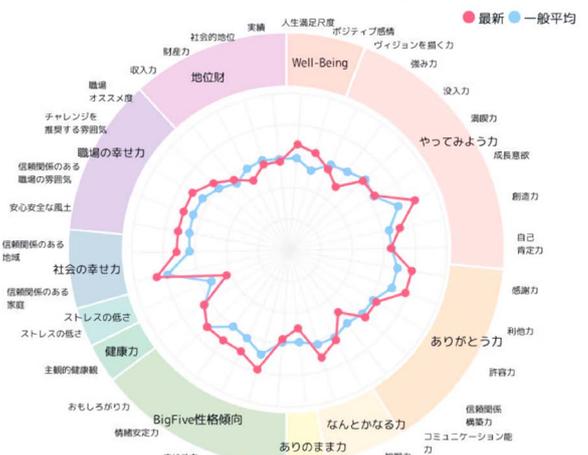
幸福経営学の基礎についてお話しします。

まず、幸せ(well-being and happiness)の定義について説明した後、幸せには長続きしない幸せ(地位財〔金、もの、地位〕を得たことによる幸せ)と長続きする幸せ(非地位財による幸せ、安全な環境、健康な身体、よい心の状態による幸せ)があることをお話しします。

次に、非地位財による幸せのうち、心的要因についての因子分析を行って求めた「幸せの4つの因子」について説明します。4つの因子とは、やってみよう因子(自己実現と成長の因子)、ありがとう因子(つながりと感謝の因子)、なんとかなる因子(前向きと楽観の因子)、ありのままに因子(独立と自分らしさの因子)です。

その後、創造性や俯瞰的な視点が幸福度につながることもお話します。また、これらの条件を満たした幸福経営のあり方や、幸福度診断と従業員満足度やエンゲージメントなどの他の指標との関係について、事例も交えてご紹介いたします。なお、ウェルビーイング経営とプロジェクトマネジメントの関係についても触れます。

幸福度診断Well-Being Circle



© Takashi Maeno

委員会・部会活動内容紹介

PMコミュニティ活性化委員会

PMコミュニティ活性化委員会 委員長 杉原 秀保

PMコミュニティ活性化委員会は、PMI日本支部会員のコミュニティを活性化する交流の場や情報を提供し、アクティブメンバーの増強や日本支部の価値向上を目的に活動しています。

2024年度は、今年初の試みとして、若年層を対象にした次世代リーダーシップミーティングを開催。半日の短い内容でしたが、PMI-アジアパシフィックからのゲスト講演やPMI日本支部の未来を考えるワークショップに加え、渋谷のレストランでの交流会など参加いただいた若い方からも大変好評でしたので、来年も継続開催の方向で検討しています。

PMコミュニティ活性化委員会では、その他にもLM2024（リーダーシップミーティング）、部会リーダー交流会や新入会オリエンテーション、部会紹介セミナーなど、年間通じて定期的に部会コミュニティを活性化する施策を企画・開催し、活動してまいりました。今後更に、部会活動の魅力や価値を発信し、アクティブメンバーの増大を図るべく取り組んでまいりますので、人と人を繋ぐイベントの企画や運営に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら大歓迎です。PMコミュニティ活性化委員メンバー一同皆さまの参加をお待ちしています。

LM2024（リーダーシップミーティング）は、PMIや支部の方向性を部会リーダーと共有・議論し、参加者のリーダーシップを育成することを目的に年に一度PMI日本支部の各部会や委員会代表者、理事、事務局メンバーらが全国から集い開催しています。今年記念すべき10回目となるLM2024は、晴海のホテルにて合宿形式で開催し70名を超える参加者が集いました。久しぶりの宿泊研修で深夜までお酒を飲み交わし熱い議論をされていたのが印象的でした。

内容は、PMIの海外イベントの参加報告や外部講師による「オーセンティックリーダーシップ確立に向けたセルフ・アウェアネス」ワークショップ、PMI Asia Pacific のRegional

Head of CommunityであるYeYoon Kim氏による講演「Making PMI:NEXT Strategy A Reality Together」などバラエティ豊かなカリキュラムで大好評でした。思考を柔らかくしたのちに最終ワーク「PMIメンバーとして私たちに何ができるか」でグループ毎にアイデアを発表し、大盛況の1.5日間でした。

部会リーダー交流会はPMコミュニティ活性化委員会が企画、運営するもので、日本支部と各部会の活動に関する情報共有や部会間連携を機会に部会活動の活性化を目的として年4回開催しています。今年も12月の4回目は昨年引き続きオンライン開催することができました。

会場のTKPガーデンシティPREMIUM秋葉原には、海外からPMIアジアパシフィック所属ゲストや地方参加者を含め70名を超える方々が集まり、全ての戦略委員会や部会から年間活動の総括をライトニングトーク形式でご発表いただきました。会場には、PMIアジアパシフィックのヨランダ・キム氏（Yolanda Kim）も韓国から駆けつけ、各部会からの発表を熱心に聞かれていました。第2部では、同会場の別フロアにてケータリングの料理やお酒を楽しみながらの交流会が行われました。お楽しみ抽選会では、豪華景品をゲットされた方もいて大いに盛り上がり、PMI日本支部のメンバーが自由に交流することができる素晴らしい機会になりました。

部会紹介セミナーは、日本支部会員で部会に興味があるものの参加を躊躇されている方々向けに、部会を知っていただき更には入会していただくことを目的に開催しています。2024年はオンラインでの部会紹介セミナーを6月・12月の2回開催し、各回3つの部会を特集しました。セミナーは2部制で、第一部では部会活動全般のご説明と各部会メンバーからのプレゼンテーション、第二部では部会別に直接メンバーとの交流会、という構成です。開催後の参加者アンケートでは各回好評価をいただき、また、一定数の方々がプレゼンさ

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

れた部会に見学・入部される結果に繋がりました。

新入会オリエンテーションは、PMI日本支部に入会いただいてから日が浅く、支部会員特典の活用方法がわからないという方向けに、年3回オリエンテーションを開催しています。内容は、1.PMI本部、2.日本支部、3.部会活動を1時間でご

紹介し、1.0PDUの受講証明書を発行しています。また、部会活動をより詳しく知りたい方向けに、Zoomのブレイクアウトセッションを利用した個別説明会（ネットワーキング）も実施しており、先輩支部会員とのコミュニケーション機会も提供しています。参加無料ですので、新規入会されたものの活用方法がわからないという方は、お気軽にご参加ください。



次世代LM2024 参加者

■ セミナープログラムの紹介

セミナープログラム 代表 鴨下 恵一

先ず最初に、私達セミナープログラムの活動は、PMBOKに基づく研究活動ではありません。

私達はPMI日本支部会員に対し、実践に役立つセミナーを提供しています。私達が企画・実施するセミナーではPMBOKにまとめられた知識体系に拘ることなく、さまざまな業界の第一線で活躍している方々を、メンバーで選び、講師としてお招きしています。従って、PMI日本支部の他のセミナーや部会活動では得られない新たな気づきと幅広い知識が得られます。私達の活動はプロジェクトマネジメントに関する研究活動ではありませんが、一つ一つのセミナー企画・運営がプロジェクトであり、プロジェクトマネジメントを実践しています。

セミナープログラムの活動概要は、**図1**に示す通り、主催するセミナーとして月例セミナー、PMI Japan Festaの2種類、それとメンバーで行う定例会があります。

月例セミナーは、ウィークデーの夜、または土曜日の午前中に2時間のセミナーを開催しています。今年は1月から12月までの間、計6回行いました。PMI Japan Festaは、毎年11月の週末2日間で、10講演を開催しています。今年は

図1 活動概要

セミナープログラムの活動概要

PMBOKの知識体系に拘らず、最先端で活躍する方のセミナーを企画・運営しています。

- **月例セミナー**
 - ウィークデーの夜、または土曜日の午前中に2時間の講演会を開催
 - 今年は1/19、2/17、4/19、6/13、8/23、12/19の6回開催（予定）
- **PMI JAPAN FESTA**
 - 毎年11月の週末2日間で、10講演（1時間x10名）を開催
 - 今年は11/9、10に開催
 - 11/9オンライン、11/10完全オンライン
 - 11/30までオンデマンド配信中心！
- **定例会（メンバーのみ）**
 - 毎月第2月曜日の夜に開催
 - 各セミナーの振り返りと計画確認他

11月9、10日に開催しました。これらセミナーは、通常オンデマンド配信も行っています。また、定例会は毎月第2月曜日の夜に行っています。定例会では、各セミナーの計画・進捗状況の確認と実施したセミナーの振り返りを行っています。

今年開催した月例セミナーの内容を表1に、PMI Japan Festa 2024の内容を図2に示します。

表1 月例セミナーの内容

2024年度開催月例セミナー

開催日	講師	講演タイトル
2024.1.19	キーリー アレクサンダー 竜太 様 (九州大学 工学研究員 准教授)	世界におけるESGマネジメントの潮流 ～日本発の標準化への道のり～
2024.2.17	勝井 恵子 様 (国立研究開発法人 日本医療開発機構 研究公正・社会共創課 課長代理)	「普通」を問い直すことの重要性 ～医療研究開発における「社会共創」の視点から～
2024.4.19	近内 悠太 様 (教育者・哲学研究者)	組織とケアを哲学する
2024.6.13	西原 大貴 様 (Owner & Principal Coach, Mononofu LLC)	脳と心をより良く使う技術 人生のアジャイル・プログラム・マネジメント、チェンジ・マネジメント
2024.8.23	三ツ木 紀英 様 (NPO法人 芸術資源開発機構 代表理事/ アートエディケーター)	アーツ x ダイアログ ～アート鑑賞でビジネス脳を鍛える～
2024.12.19	鈴木 敬一 様 (鈴木技術士事務所 代表)	技術者倫理教育で実現する組織の価値向上 ～持続的成長と競争力強化のための戦略的投資～

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

図2 PMI Japan Festa 2024 の内容

PMI JAPAN FESTA 2024

<p>講演#1 アサラシ型ロボット「ROJ」のエビデンスに基づく海外での医療機器化と医療福祉制度への組み込み</p>  <p>柴田 素徳 様 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 上級主任研究員</p>	<p>講演#2 空飛ぶクルマの実現に向けて～建設コンサルタントとして異業種からの挑戦～</p>  <p>菊地 英一 様 株式会社長大 事業戦略推進統括部長</p>	<p>講演#3 「デジタルとアナログの交差点」～JTCの事業会社でDXで行う為の道しるべ～</p>  <p>各務 茂雄 様 株式会社JTB DX担当 執行役員</p>	<p>講演#4 前歯は折れ、パークは事業譲渡、泣くか笑うか！？</p>  <p>竹村 真紀子 様 エデュケーター / パークプロデューサー</p>	<p>講演#5 意外と簡単ではない「やるべきことをやる」ということ</p>  <p>結城 智史 様 合同会社 Zest CEO</p>
<p>講演#6 役割が後押しした挑戦 ～初めての経験を通じた成長の記録～</p>  <p>北村 智子 様 PMI株式会社 生産本部 モノづくり改革統括部長 行程能力改善課</p>	<p>講演#7 未来の医療を創るために現在の患者さんの看護をする ～リサーチナーズという道～</p>  <p>藤原 紀子 様 東京大学 医科学研究所付属病院 先端緩和医療科 がん看護専門看護師 / リサーチナーズ</p>	<p>講演#8 ①リハビリテーション分野に特化した生成AIソリューションの開発 ②SOP ～企業年金の制度管理事務における生保共通プラットフォームの構築～</p>  <p>大門 恭平 様 医療法人生和会グループ SDX研究所 所長</p>	<p>講演#9 手術室から踏み出す宗のまちづくり</p>  <p>荒金 英樹 様 愛生会山科病院 消化器外科部長 / 京介食推進協議会 会長</p>	<p>講演#10 ウェルビーイング経営 ～みんなが幸せなプロジェクトの進め方～</p>  <p>前野 陸司 様 慶應義塾大学大学院 SDM研究科 教授 / 武蔵野大学 ウェルビーイング学部 学部長・教授</p>

ここで、セミナーを開催するのに、私達がどのようなことをしているかをご説明します。まず講師担当となった人が講師を選び、講演依頼します（講師に講演依頼することをタッピングと呼んでいます）。講師が決まったら、講師担当は、講演内容等を講師と打ち合わせます。最近ではオンラインで行っていることが多いです。講師との打ち合わせと並行して、セミナー当日のボランティアスタッフをメンバーから募集し、役割分担を決めます。オンライン開催の場合、ディレクター、司会者、Zoom操作、Q&A担当、スライド担当等の役割があります。開始直前も含め、講師を交えたリハーサルを行ったりもします。講演終了後には講師と共に振り返りを実施します。また受講者に対してアンケートを行い、その結果を解析して、その後のセミナーの改善に繋がります。以上の流れについて、今年のPMI Japan Festa 2024を例にして、実際どうであったかを表2にまとめました。

ところで皆さんは、私達がどのように講師を探しているかに興味があるのではないかと思います。今年招請した講師について、どのように見つけたかを図3にまとめました。今年では仕事関係で見つけた講師が例年以上に多いと思います。この中で他のセミナーや本、新聞やテレビで興味を持っ

表2 セミナー開催までの流れ

セミナー開催までの流れ (PMI Japan Festa 2024の場合)

月	実施内容	会場関係
3月	概要確認	
4月	講師候補者リスト化 全体テーマ決定	候補会場リスト化
5月	タッピング順位決定 タッピング開始	会場絞り込み
6月		会場下見・決定
7月	講師毎に打合せ（講演タイトル、写真入手）	配信方法等確認
8月		
9月	全講師決定 ウェブページ公開・募集開始	
10月	オープニング、休憩、クロージングスライド作成 スタッフ役割分担決定、進行表作成、リハーサル	リハーサル 進行確認
11月	講演資料入手、ウェブリハーサル、担当毎準備 本番・ウェブ配信	直前リハーサル 本番
12月	アンケート集計、振り返り	

た方が5人いらっしゃいます。こうした方には、会社のホームページへの書き込み等、飛び込みで講演をお願いしていますが、かなり高確率で講演を実現できていると思います。一方で、仕事関係を含めた知人に登壇頂いています。メンバー皆、常にアンテナ張って講師を探していて、チャンスを逃さ

Best Practice and Competence / PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

図3 講師の探し方

講師の探し方	
■ 他のセミナー・本	(2)
■ 新聞・TV (特集記事、企画もの等)	(3)
■ 仕事・職場 (関係先、元同僚等)	(7)
■ 知人 (趣味での交流、子ども関係等)	(2)
■ その他 (知人からの紹介、メンバー等)	(1)

ないようにしています。つまり、講師に講演を依頼する書式、コツはあり、そこは新しい方にお伝えすることはできますが、講師を探すところは各自の努力、日々の姿勢かもしれません。

今年2024年のトピックスですが、今年は何と言っても会場開催の復活です。新型コロナウイルス感染拡大前は、会場開催が基本でしたが、コロナ禍の間は完全にオンライン開催でした。会場で開催したのは、月例セミナーでは2020年2月度以来、PMI Japan Festaでは2019年以來のことでした。今回は、会場探しから始め、エッサム神田、アキバプラザという素晴らしい会場を使うことができました。開催に際しては、図4にまとめた通り、会場開催とオンライン開催の割合をどうするか、会場開催の場合、同時配信するかどうか、等多くの観点で検討が必要でしたが、何とか当初計画した形で一年間セミナーを開催することができました。

図4 2024年のトピックス

2024年度のトピックス：会場開催の再開	
コロナ禍により2020年2月度月例セミナー以降は完全オンライン開催 ⇒2024年4月度月例セミナーを会場で開催、 以降6月度、8月度月例セミナー、 PMI Japan Festa 2024第1日を会場開催	
■ 会場の調査・決定	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 月例セミナー： エッサム神田2号館2-501、PMI日本支部事務局セミナールーム ■ PMI Japan Festa 2024：アキバプラザ セミナールーム1 	
■ 完全オンラインと会場開催の割合	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 首都圏以外からの参加者への配慮 ■ 首都圏以外からの講師の招請 ■ 会場開催ならではの良さとは？ 	
■ 同時配信の可否	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 要員・技術的な可能性 ■ 配信機材の確保 	

最後に、私達の活動で何が得られるか、図5にまとめました。セミナー開催のノウハウを身につけられることは当然として、セミナーというプロジェクトの実践によりプロジェクトマネジメント力を高めることができます。また、企画したセミナーの内容から幅広い知識を得ることができます。講師やメンバーと個人的なリレーションを構築することが可能です。皆さん、私達と一緒にセミナー・プログラムで活動しませんか。最初は見学も可能です。ご興味ある方はお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

Asana Japan 株式会社



● Asana で切り拓くプロジェクト管理の新時代

プロジェクトマネジメントの分野では、効率性や透明性の向上が重要視されています。Asanaであれば、最新のAI技術を活用し、これまでにない“ワークマネジメント”という概念を実現することができます。Asanaの革新的なアプローチは、従来の手法を一新し、プロジェクトマネージャーにとっても魅力的な選択肢となっています。

● 最新AI機能がもたらすプロジェクト管理の革新

● タスクの自動割り当てと優先順位の設定

Asana AIは、チーム全体のスケジュールや作業量を分析し、タスクの優先順位を自動的に提案します。これにより、プロジェクトマネージャーはリソース配分に悩む時間を削減でき、重要な意思決定に集中できます。

● インテリジェントな期限予測

過去のデータを元に、タスクの所要時間や完了予測を算出。期限遅延のリスクが早期に検知できるため、迅速な対応が可能です。

● ナチュラルランゲージプロセッシング (NLP) を活用したタスク作成

「来週までにプレゼン資料を準備」という自然言語での指示を入力するだけで、AIが適切な期限や担当者を設定し、自動的にタスクを作成します。従来の煩雑なタスク払い出しや確認作業が不要になります。

● 会議内容の自動要約とタスク化

Asana AIは、会議で議論された内容を自動的に要約し、重要なタスクを生成します。会議後のタスク整理にかかる時間を大幅に短縮します。

● AIベースの進捗分析とレポート生成

プロジェクトの進捗状況や課題をリアルタイムで分析し、カスタマイズ可能なレポートを生成します。チーム全体が最

新の状況を把握しやすくなり、迅速な意思決定が可能となります。

● 従来の手法との決定的な違い

● 受動的な管理から能動的な支援へ

従来のエクセルといったようなツールは、ユーザーがすべてのタスクやデータを手動で入力し、進捗を管理する必要がありました。一方、Asana AIはプロアクティブにタスクの整理、分析、提案を行い、プロジェクト全体を最適化します。

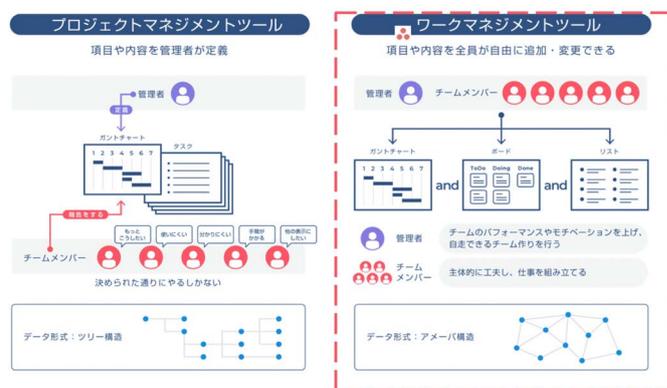
● 過去データの活用による予測力

従来は、プロジェクトの成功を過去の経験や直感に頼る部分が大きく、ミスを誘発することもありました。Asanaはデータ駆動型のAIを活用し、精度の高い予測と最適化を実現します。

● コミュニケーションの効率化

メールやチャットツールでの断片的な情報共有に依存していた従来の方法と異なり、Asanaは会話の内容をAIが整理し、タスクやアクションに変換します。これにより、ミスコミュニケーションのリスクが激減します。

Asana と従来のプロジェクト管理ツール概念の比較



● Asana が生み出す未来志向のプロジェクト管理

最新のAI機能を備えたAsanaは、チームの目標達成をサポートするだけでなく、プロジェクトマネジメントそのもの

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ Asana Japan 株式会社

のあり方を進化させています。

● 柔軟性とスケーラビリティ

Asanaは、少人数のチームから大規模なプロジェクトまで、あらゆる規模のプロジェクトに対応可能。AIの助けを得ることで、管理者のスキルやリソースに左右されることなく、安定したプロジェクト運営が可能です。

● 生産性の最大化

Asana AIによる自動化と最適化で、管理業務にかかる時間を削減。プロジェクトマネージャーが本来のリーダーシップに集中できる環境を提供します。

● イノベーションを加速する文化の醸成

Asana AIは、従業員の作業負担を軽減し、創造的なタスクに時間を割ける環境を実現します。これにより、チーム内でイノベーションが自然に促進されます。



● Asanaと共に新たな一歩を

Asanaは、単なるタスク管理/プロジェクト管理ツールではなく、“ワークマネジメント”プラットフォームです。組織を横断して現状を可視化し、企業の経営戦略とも結び付いた、「広義のプロジェクト管理」を実現するツールともいえます。Asanaというワークマネジメント・プラットフォームを通じて、従来の手法では解決できなかった課題を克服し、よりスマートで持続可能なプロジェクト運営を可能にし、本来の“人”がやるべき仕事に集中できる未来志向のプロジェクト管理を体験してみませんか。

■ Asana Japan

- お問い合わせ：sales@asana.com
- 参考用のホワイトペーパー、プロジェクトテンプレート、事例記事などはこちら：

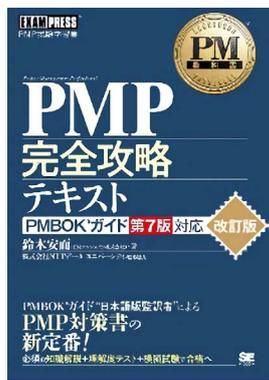
<https://www.work-management.jp/>

PM アソシエイツ株式会社

PM アソシエイツ株式会社 鈴木 安而

● PMに特化した研修・教育会社

PMアソシエイツ株式会社（PMA）は、プロジェクトマネジメント領域に特化した「鈴木安而」のグローバルな経験とPMBOK®ガイド翻訳で得た知見を基に、プロジェクトマネジメントに関する基礎知識からPMP®資格試験に必要な高度な知識まで、幅広い教育・研修をお届けしております。4名の講師陣で、2024年だけでも1,000名ほどの受講生の能力向上に貢献してまいりました。さらに最近では、PMI-ACP®やCAPM®の資格試験のための講座も実施しております。そして、それらからの知見をまとめ、今までに13タイトルのプロジェクトマネジメント関連の書籍を出版しており、最近では『PMBOKガイド第7版の活用』（秀和システム）と『PMP完全攻略テキスト』（翔泳社）が、特にご好評をいただいております。



● 研修の効果

ところがある日、お客様である会社の社長から相談を持ち掛けられました。「鈴木さんの勧めでPMPを何人か作ったが、実務に役立っていない。これはどうしたことか」というのです。すぐさまその会社に飛んで行き、PMP®を取得した数人と面談を行いました。彼らの実務上の問題を理解したので、後日補習を行ったのですが、どうもすっきりしません。研修後に彼らと懇親会をおこなったのですが、彼らのホンネでは「今の仕事は、PMBOK®ガイドに沿ったような仕事ではない」というのです。その会社のビジネスはITシステム運用とソフ

トウェア開発なのですが、日本のITビジネスの階層構造の位置づけとしては二次請や三次請に相当します。要するに一次請であるSIerから受注した仕事をこなせばよいわけで、プロジェクト全体を運営したりマネジメントしたりするわけではないのです。一次請の会社が分割したスコープの一部を担っているだけなので、その部分のスケジュール管理が主たるマネジメント領域なのです。一応「請負契約」ではあるのですが、プロジェクト全体からすると一部分であるスコープに基づくスケジュール管理だけなのです。プレゼンス・ダイアグラムはありませんからクリティカル・パスは特定されていません。進捗管理はKKD（勘と経験と度胸）の世界です。PMBOK®ガイドが志向する全体管理には程遠い状況ですが、これが実情なのです。

● 日本の実務慣行とPMBOK®ガイドの違い

この時の議論から、次のように考えました。日本の「請負」というビジネス慣行は、米国流のビジネス慣行を基礎とする「PMBOK®ガイド」の考え方にはそぐわない、ということです。日本の民法にも規定された「請負」という実務慣行は、明治初期に制定されて以来少しずつ変化はしてきましたが、根底は「任せます」、「お任せください」という紳士協定に基づくもので、いわば「性善説」ともいえる実務慣行は変わっていません。「善良なる管理者規定」なる用語がその一端を表しています。これはこれでいいことなのでしょうが、米国流は、いわば「性悪説」の文化で、契約書はリスク対策書という意味合いを持っています。米国におけるプロジェクトで、私が初めて英語の契約書を書くことになったとき、「任せる、なんでもってのほかだ」と叱られた経験があります。そもそも日本の実務慣行を米国流に変えるということは土台無理な話なので、日本の実務慣行に合わせた教育が必要ではなかろうかと、考えました。つまり、発注側が取り仕切る米国流のプロジェクトマネジメントのための教育と、日本流の一次請や二次請でのプロジェクト運営に関する教育とは自ずと異なるということです。発注側では、自社の事業目標を達成するためのプロジェクト運営が基本であり、これがPMBOK®ガイ

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ PM アソシエイツ株式会社

ドの位置づけです。一次請は、それを支援するためのプロジェクト運営を行います。しかしながら、その下に位置づけされる開発会社は、原発注者との直接取引ではないため、プロジェクトマネジメント全体には関われないので、「いいものを安く早く」というQCDの世界に閉じ込められることになります。QCDは、そもそも事前に決められた手順に沿って作業する「モノづくり」の製造工程における管理項目です。それを頭脳労働であるソフトウェア開発工程に適用したために「デスマーチ」が発生したことは、エドワード・ヨードン著「デスマーチ」に詳しく述べられています。その中に「ソフトウェア開発は死の行進である」という有名なフレーズがあります。QCDのために技術者が犠牲になったのです。

● 日本の実務慣行に適したPMの育成

これらの実情を踏まえると、PMBOK®ガイド流のプロジェクトマネジメント実務者を育てることに加えて重要なことは、日本の実務慣行に沿ったプロジェクトを運営できる実務者を育てること、であることは明白でしょう。PMBOK®ガイドの学習は、あくまで発注側の運営について学ぶことです。しかしながら日本での現実には、圧倒的に二次請以下の会社や技術者が多数を占めているので、そこに目を向けた教育が必要なのです。つまり日本におけるプロジェクトマネジメント教育・研修は、発注側と受注側の両側面で開催されなければならないということです。

● 自習型PM学習アプリ（ピンぼっくん）の開発

そこで弊社は、受注側に目を向けた自己学習ツールを開発しました。商品名を「ピンぼっくん」（商標登録済み）と言います。



自習に便利のように、PCでもスマホでも、いつでもどこでも、ちょっと時間が空いたらゲーム感覚で操作できるアプリです。模擬試験形式になっていますが、時間制限はありません。設問には三つのレベルが設定されています。初級編はプロジェクトマネジメントに関する用語の理解が目的で、CAPM対象です。中級編はPMP資格試験対策同様のレベルです。上級編は日本独自の実務慣行や法律関係の理解を目的としています。詳細は「ピンぼっくん」のホームページ(<https://PMVOQN.com/>)をご覧ください。このアプリでは組織単位でのスキル管理にも役立つようにデザインされていますし、必要な方にはPDUを発行可能です。ぜひお役立てください。

Activities / 支部活動

ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2024 報告

PMI日本支部 関西ブランチ PM実践研究会 岡田知之

PMI日本支部 関西ブランチPM実践研究会 主催

関西ブランチ「あかね実践工房」

オンサイト開催!

ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2024 ～ 公共システムプロジェクトにおけるステークホルダーマネジメント ～

日時：2024年9月28日(土) 13:30 ～ 16:30

場所：京都市下京区 キャンパスプラザ京都



PMI日本支部 関西ブランチ「あかね実践工房」

ショートケースで学ぶ PM 実践ワークショップ(オンサイト)
2024

テーマ「公共システムプロジェクトにおけるステークホルダー
マネジメント」

「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ」は、プロジェクトの実践事例から作成された短いケースを疑似体験し、グループで協議し解決策を作成することにより、プロジェクト・マネジャーの実践力向上を図る参加型のワークショップです。本ワークショップでは、状況把握力、課題認識力、リスク特定力などのPM実践力の向上を目指しています。9月28日に行われたワークショップのテーマは「公共システムプロジェクトにおけるステークホルダーマネジメント」でした。

1. はじめに

2024年9月28日(土) 13時30分よりPM実践研究会「あかね実践工房」ショートケースで学ぶPM実践ワークショッ

プ2024を、オンサイトにて開催いたしました。

関西在住の6名の方々に参加いただき、7名のPM実践研究会メンバーで運営しました。

2. PM実践研究会の活動紹介およびショートケースメソッドのミニレクチャー

まず、橋本代表からのPM実践研究会についての説明から始まりました。プロジェクト・マネジャーの能力の向上のため疑似体験としてショートケースを元に議論を行い課題解決に役立てていただいで実践力の向上を図るという位置づけについての説明いたしました。

3. ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ開催

より実践的に理解を深めていただくため、講師・スタッフによるサポートを行いながら個人ワークやグループワークを含むワークショップ方式で進めました。

まず、実践事例に基づくショートケースの紹介を講師が行い、個人にてショートケースの中から懸念事項を抽出し、対策案を検討しました。個人で検討した懸念事項と対策案を持

Activities / 支部活動

■ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2024 報告

ち寄り、チームでまとめて発表。最後に全体の振り返りを行い、重要な視点や持ち帰っていただきたい学びを整理します。

今回の「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ」は、関西 brunch の会員にインタビューした実際の事例をもとに新規に作成したショートケースでした。

参加者6名が2チームに分かれ、与えられた状況において、

- ① 懸念される箇所を全て指摘してください
- ② 指摘した箇所で、具体的に何が懸念されますか
- ③ 懸念されることに対してどのような対策を講じますか

といった「問い」に対してまず個人検討を行い、その後、各々のチームにファシリテーターがついて議論が行われ、ホワイトボードに付箋を貼ってまとめるKJ法を用いました。



振り返りでは、Keep (良かったこと、続けたいこと)、Problem (課題、問題点)、Try (今後試したいこと、やりたいこと) に分けて意見発表が行われ、Keepに関しては詳細な事例による話の多様化、視点の違いによる受け止めの違いの発見といった意見、Problemではファシリテーションやスコープに関する課題、Tryでは共通言語の定義や自社への展開などについて意見が見られました。



参加者と講師・スタッフ 集合写真

4. アンケート結果

アンケートに回答をいただいた方の75%が今回初めてPM実践ワークショップに参加された方でした。

参加後のアンケート結果では、満足度に関しては今回も全員が「とても満足」または「満足」との回答をいただきました。これで2021年より6回連続満足度100%を達成しました。

ショートケースによるワークショップだったから参加された方は75%おられ、ショートケースに関しての高い関心が見られました。特筆すべきはアンケート回答者全員が再びショートケース・ワークショップに参加を希望されたことで、このことからショートケースによるワークショップに対しての高い満足度が確認できました。

ショートケースを通しての学びや気づきに関しては異業種の方の意見をきくことで着眼点の違いに分かり参考になったなどと言及されており、参加された方の今後のプロジェクトマネジメント活動に貢献できたと考えています。

今回はファシリテーションを参加者に担当していただき、スタッフはチーム支援を行いました。チーム支援に関する質問をしたところ、経験に基づく知見・アドバイスを適切なタイミングでもらえたとの評価をいただきました。

今後、これらの貴重なご意見を踏まえ、関西 brunch PM実践研究会の更なる活発な活動に向けて取り組んでいきたいと思っております。

岡山大学 総合技術部でPMI日本支部が 「プロジェクトマネジメント基礎研修」を実施 技術職員の高度化とPMの実践的スキル習得を支援

PMI日本支部は、岡山大学 技術統括監理本部 総合技術部と協力し、技術職員のプロジェクトマネジメント（PM）能力向上を目的とした**「プロジェクトマネジメント基礎研修」**を実施しました。本研修は、PMスキルと技術ノウハウの融合を図り、研究開発イノベーションの推進を担う人材の育成を目指すものです。

◆研修の概要

- **対象者**：岡山大学 総合技術部 技術職員・事務職員
計24名
- **会場**：岡山大学 津島キャンパス 環境理工棟
- **日程**：全3回（総学習時間24時間）
Day1：9月14日
Day2：10月5日
Day3：10月26日

PMI日本支部からは講師・アドバイザー・ファシリテータとしてボランティア10名が参加し、講義およびグループワークを通して、PMの基本概念から実践的手法までを指導しました。

◆研修の実施内容と成果

本研修では、一般社団法人研究基盤協議会が主催する**「研究基盤EXPO」**内で総合技術部が担当するシンポジウム企画を題材に、PM手法を活用しながら実践的な演習を行いました。

異なる業務を担当する職員が一堂に会し、共通のテーマで学ぶことで多角的な視点からの気づきが生まれ、参加者からは、「新しい観点からプロジェクトマネジメントが見えるようになった」といった声が多数寄せられました。

◆デジタルバッジの発行

研修終了後、PMI日本支部の評価基準に基づき、デジタルバッジが発行されました。

- **発行対象者**：○総合技術部 技術職員19名、事務職員5名
(計24名)【学習証明】

○PMI日本支部 ボランティア10名(講師・グループ演習のアドバイザー・ファシリテータ)

学習証明のデジタルバッジは、全3回の研修への参加および成果物評価で8割以上の基準クリアを条件とし、「プロジェクトマネジメントの基礎を学び、専門知識を活用してプロジェクトマネジメントを行える能力を高めた」ことを証明するものです。



岡山大学向け



支部ボランティア向け

◆研修の様子



初回準備会議参加者の集合写真

Activities / 支部活動

■岡山大学 総合技術部でPMI日本支部が「プロジェクトマネジメント基礎研修」を実施



PMI日本支部のアドバイザー指導のもと活発な議論を展開



PM基礎研修終了後の記念撮影

「プロジェクトマネジメント基礎研修」を実施した
岡山大学 津島キャンパスの環境理工棟

◆PMI日本支部の支援活動と今後の展望

本研修は、PMI日本支部のボランティアが持つ豊富な知識と経験を活かし、岡山大学 総合技術部と連携して実現しました。今後もPMI日本支部は、プロジェクトマネジメントの普及と人材育成支援を通じて、社会全体のイノベーション推進に貢献してまいります。

◆対外発信と今後の展開

【2024年】

4/24 岡山大学

「技術」から研究開発イノベーションをマネジメントできる技術職員の育成プロジェクトを開始～プロジェクトマネジメント能力を持つ技術職員の高度化を強化推進～ - 国立大学法人 岡山大学 (okayama-u.ac.jp)

4/26 文部科学省

人材委員会 研究開発イノベーションの創出に関わるマネジメント業務・人材に係るワーキング・グループ (第6回配布資料)：文部科学省 (mext.go.jp)

6/14 文部科学省

[人材政策課の資料](#) PMIを基にした人材育成

10/23 岡山大学

総合技術部&PMI日本支部「第1回プロジェクトマネジメント基礎研修」を開催～技術職員と事務職員を高度化する観点からスキルを学ぶ～ - 国立大学法人 岡山大学

【2025年】

1/7 岡山大学 学習証明デジタルバッジの授与式 (岡山大学主催)

1/23 研究基盤EXPO2025 にて、岡山大学向けPM基礎研修の実施内容、成果を講演 (鳥本PM)

PMI日本支部は、引き続き、プロジェクトマネジメントの専門知識を通じて産学連携を推進し、人材育成と社会的価値の創出に取り組んでまいります。

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー／ワークショップ

● 戦略的PMO実践ワークショップ2025

- 日時：1月25日(土) 13:00～17:20
- 形式：リモート開催
- 4PDU

● プログラムマネジメント実践ワークショップ2025

- 日時：3月14日(金) 9:30～18:00
- 形式：リモート開催
- 7PDU

● 4月度 月例セミナー

- 日時：4月19日(土) 10:00～12:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU

● 2月度 月例セミナー

- 日時：2月21日(金) 19:00～21:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU

● アジャイル基礎

- 日時：4月15日(火) 9:30～18:30
- 形式：リモート開催
- 7PDU

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI日本フォーラム2025(予定)

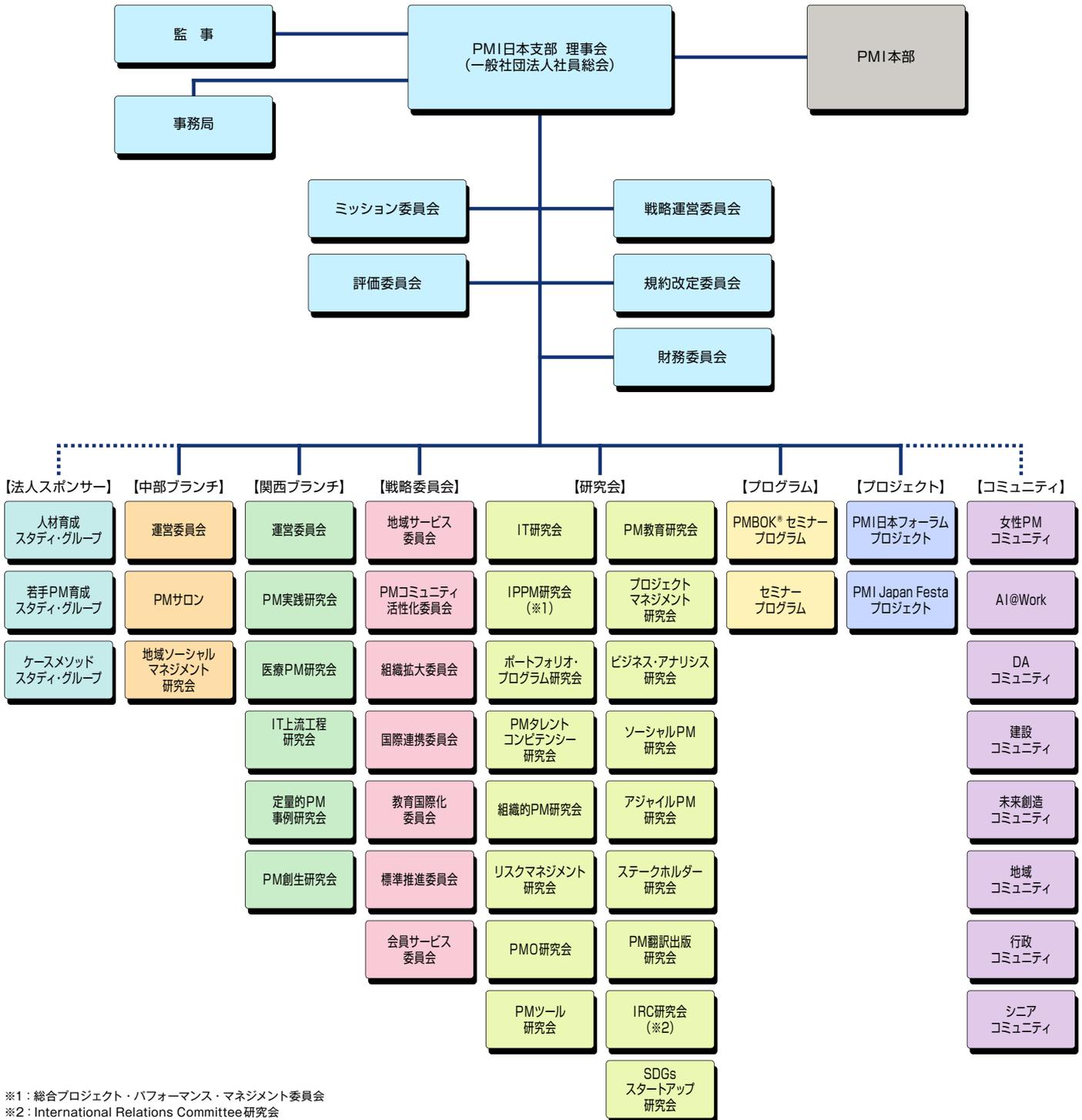
- 会場開催：2025年7月12日(土)
- リアルタイム配信：2025年7月12日(土)～13日(日)
- オンデマンド配信：2025年8月末まで

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2024年12月現在)



※1: 総合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント委員会

※2: International Relations Committee研究会

Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2024年12月現在)

会長	端山 毅	株式会社 NTT データグループ
副会長	麻生 重樹	日本電気株式会社
副会長	奥澤 薫	KOLABO
副会長	中村 亜子	株式会社 パーソル総合研究所
副会長	藤井 新吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
副会長	森田 公至	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理事	稲葉 涼太	TIS 株式会社
理事	井上 雅裕	慶應義塾大学大学院 / 芝浦工業大学 / ISAL
理事	浦田 有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構 / ナショナルサイバートレーニングセンター
理事	小川原 陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理事	奥田 智洋	株式会社 アイ・ティ・イノベーション
理事	鬼束 孝則	Ridgelinez 株式会社
理事	金子 啓一郎	プロジェクト・ピープル・パフォーマンス研究所
理事	斉藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
理事	坂上 慶子	株式会社 日立アカデミー
理事	杉原 秀保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理事	千葉 昌幸	株式会社 三菱総合研究所
理事	羽佐間 一潮	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
理事	藤原 慎	株式会社 NTT データユニバーシティ
理事	松本 弘明	株式会社 ローソン銀行
理事	水井 悦子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理事	山本 智子	川崎医療福祉大学
理事	除村 健俊	サイバー大学 / 芝浦工業大学

■ 最新の会員・資格者情報 (2024年11月30日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
739,013	6,424

資格保有者数 (人)												
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM®	DASSM®	DAC®	DAVSC®
世界全体	日本在住											
1,550,281	47,999	8	21	37	539	21	17	645	140	51	17	8

■ 行政スポンサー (2024年12月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市
- 広島県 福山市
- 広島県総務局 県庁情報システム担当

■ 法人スポンサー 一覧 (119社、順不同、2024年12月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノン I T ソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTT データグループ
- プラネット株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード合同会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- BIPROGY株式会社
- JBCC株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社N T T データ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社SI & C
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A株式会社
- ロジスティードソリューションズ株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&ADシステムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

Fact Database / データベース

- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート
- JFE システムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーマ株式会社
- I&J デジタルイノベーション株式会社
- 株式会社NTT データ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NEC ソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- MI デジタルサービス株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- TOPPAN エッジ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社IT プレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI 株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社 PE-BANK
- 三菱電機エンジニアリング株式会社
- Smartsheet Japan 株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- AKKODiS コンサルティング株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS
- キンドリルジャパン・テクノロジーサービス株式会社
- ネットワンシステムズ株式会社
- PM アソシエイツ株式会社
- Asana Japan 株式会社
- イノベーションフレームワークテクノロジー・プラニスウェア株式会社
- 株式会社ピーエスシー
- 株式会社ワールドフェイマス
- DXC テクノロジージャパン株式会社
- 株式会社SCC
- テクノシステム株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (55 教育機関、順不同、2024 年 12 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター

Fact Database / データベース

- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
- 名古屋工業大学 社会工学科 経営システム分野 瀧口研究室
- 日本経済大学 大学院経営学研究科
- 大正大学